

朝日：建物の空気中か。

回答：そう。

朝日：水はいつか。水の線量はいつなのか。

回答：そのあとの3号機。

毎日 ()：1から3号の注水で原子炉の水位があがらない。入れているものが漏れているのか。

回答：水は入っているのだが圧力関係で入らない。原子炉内では水が蒸発し、水に戻って下に行き溜まる。蒸気の圧力が水の注入が妨げられ、水が思うように入らない。

毎日：閉じているから水は上がるのでないのか。

回答：格納容器に出ていくものもあれば、圧力容器に溜まるものもある。

毎日：格納容器にいつているのか。

回答：そのようである。

毎日：海水は、容器が破損して漏れて結果的に漏れているのではないか。

回答：わからない。大きく割れてじゃぶじゃぶと漏れてはいない。密閉されている隙間から漏れ出ている。ある程度圧力がある。

朝日 ()：作業員が電源ケーブル作業で被ばくした作業は、残留熱系か補給水系のどちらなのか。

回答：復水系の作業。恒久的措置でいずれは行うところ。

読売：ポンプで水が広がらないという理解でいいのか。

回答：ポンプで水を回収する以外の方法はない。

読売：水の全体像について、保安院がわかっているのか。

回答：水のことだけ調べてはいない。

読売：ある程度きちんと把握した上で、保安院がダブルチェックすべきではないのかと。素朴な疑問を持つ。

回答：ある程度正確な情報は掴んでからでないと言えない。

読売：目視での確認レベルでいいから、最新のものを公表して欲しい。

回答：何らかの形で作業しながら、どういう形でお示しする。

読売：水の見解は原子炉からの根拠を教えてください。

回答：3号機で漏れ出した水の結果、ガンマ線の半減期が短いヨウ素、セシウムが確認されている。核種は核分裂の由来は明らかであり、半減期が短いことから原子炉から推測される。原子炉か使用済燃料プールかといわれるが、原子炉ではないかと。

読売：使用済燃料プールからのヨウ素は低いということ。合理的な説明ははじめてではないか。

回答：はじめて。

読売：専門的の方から分かる話。保安院としてアナウンスするものではないか。

回答：はっきり分からない。使用済燃料プールより原子炉からについては、分からないから言っていなかった訳でない。はっきりした原因がわからないからである。聞かれたから思うところを言った。確信がない。言われたから言った。

読売：そういった部分は早い段階から正確なアナウンスをしていただきたい。

回答：余り推測を沢山並べるのはどうかと。おっしゃる趣旨は理解した。これからは気を付けたい。

先ほどの質問の中で1 F 5, 6号機の北側での海水について、前日のデータについて、お答します。

ヨウ素131は、前日が283.3。昨日が23.7。

セシウム134は、前日が28.0。昨日が1.8。

セシウム137は、前日が18.5。昨日が1.2。

〇〇：最終日はいつか。

回答：24日10:40

以上

270/00

左

左オペ
コフ 幹 ←
METI
留
リ
エ
ン

暫定版

プレスレク概要
(第55報)

日時：平成23年3月26日(土) 22:35～23:20
場所：保安院第4会議室
対応：西山審議官

(説明)

[各号機の状況]

- ・ 1号機から4号機までの水の現状について説明。

(1号機)

- ・ 1号機のターピン建屋の水について、核種分析結果は報告済である。
- ・ 水は復水器の中に入れて閉じ込めている。作業は進んでいるが、なかなか難しい。いつまでに成し遂げるかわからない。
- ・ 海水を消火ラインから入れていたが必ずしも十分ではなかった。給水ラインから淡水に切り替えて不純物の弊害を取り除こうとしている。
- ・ 放射性を帯びた溜まり水については、拭き取り除染し、電源を復旧させる。
- ・ 残留熱除去系により本来の除熱を行う。

(2号機)

- ・ 溜まり水について、どのような方法で水を抜いていくのかを検討中。

(3号機)

- ・ 復水移送ポンプの復旧のために電源ケーブル移送時において作業員が被ばく。
- ・ 残留熱除去系に持ち込みたいが、それまでにポンプ車での淡水注入をおこなっている。
- ・ 溜まり水の処理は決まっていない。

(4号機)

- ・ 溜まり水の処理は決まっていない。

(使用済燃料プール)

- ・ 恒久的な冷却方法は決まっていない。ポンプ車による注水を継続中。

(質疑)

共同 (): 溜まり水については2、3号機についてはポンプがつかえないので作業についてはどうなっていくのが。

回答：全貌がつかまえていない。勘案しての結論が出ていない。

共同：1号機について水が漏れている報告はあるのか。

回答：ない。難航していることは聞いている。作業は難しい。

共同：難航とは何か。

回答：わからない。

フジテレビ（ ）：2号機の大物搬入口から水が出ている。これに想定さる原子炉の状況について聞きたい。

回答：2号機の建屋については放水していない。配管からの注水だけ。水が溢れないように感知しており、水がとどまる機構になっている。だらだら漏れないように想定されている。

フジ：水が流れた後に線量がある。中から出てこなくても地面から、観察されるのではないか。

回答：水が出ている出来事のひとつとして、中から漏れた水に線量が含まれていたか、または、普通の水の中に一緒に混ざったものなのかの両方がある。

フジ：線量は東電はやっていないと聞いているが保安院は知っていたのか。

回答：東電は計測をしていて、線量は出ている。多少はあると判断した。

フジ：多少とはどのくらいの線量か。

回答：例えば、線量の幅があり、15ミリシーベルト毎時。

ししょかんさい？（ ）：原子炉容器に支障があり、燃料から出ていたのか。

回答：核種分析からであり、決定的なものでない。短周期の半減期からみて、使用済燃料からは放射性物質の半減期が短いものはないので、原子炉のほうではないかと推測した。

ししょかんさい？：官邸からの公表では各号機のデータが出ている。2号機の原子炉圧力容器の圧力についてゲージ圧で8気圧。他の号機では70～80気圧であり、これまで圧力が落ちることは圧力容器から冷却材損失があってもおかしくない。格納容器と同じ圧力から、水は抜けたと見るべきか。保安院の見立てはどうか。

回答：1号機について、水を入れることが十分でなくて燃料が損傷したので、水素が出て建物の爆発があった。

ししょかんさい？：絶対圧が急に落ちている。圧力計が信用に足れば、どのような現象なのかを教えてほしい。

回答：確認する。

ししょかんさい？：ドライウェルが抜けたのが8時35分。今の資料では10時17分。ドライウェルの変化は何によるものか。8時35分は何があったのか。

回答：データをもって確認する。

NHK（ ）：一般排水溝は海につながっているのか。

回答：そうだと思う。

NHK：ドライウェルの被害の状況については教えて欲しい。

回答：わかっていない。

中日新聞（ ）：1、2号機の計測は行うのか。

回答：プルトニウムについては、土壌とかダスト（ちり）の測定には意味がある。やることを考えている。

中日：半減期が長い核種については、住民からすれば不安が多いもの。水溜まりについても普通にやった方がいいのではないか。

回答：今のところは考えていない。

中日：やらないという意味か。

回答：やって意味があればやる。

時事通信：首相補佐官に馬淵さんが任命されたが、官邸から保安院に対し何かあったか。また、保安院とどのように連携を行うのか教えて欲しい。

回答：説明できるだけ知識はない。東電本部に一定の役割を持たせるのではないか。ここでは持ち得ていないことから、コメントは差し控える。

時事：知らないということか。

回答：そういうこと。

西日本新聞：1号機の気圧計については、配管の損傷と専門家が指摘しているが、配管の健全性についてはどうなのか。

回答：配管の健全性についてのデータは見たことがない。

週刊朝日（ ）1号機の気圧が下がっている。冷却水の喪失で重大事故であるが、その対応マニュアルはあるのか。

回答：燃料損傷の可能性はわかっている。そのために水素が発生し、国際基準レベルで5の段階になっている。もとに戻すために海水を注入し、淡水を入れている。

週刊朝日：疑いがあるから当初から行っていたのか。

回答：（整理してからお答えする。）元々、隔離時冷却系の電源がなくなり動かせなくなり、外から強制的に注水を行った。ベントでガスを抜く作業をおこなったが、タイミングが遅れたために燃料に水が十分浸かってなくて燃料が損傷した。電気がなくて対応を打ったが間に合わなかった。

：2号機制御室が点灯して計器が回復し分かったことはあるのか。また、淡水に変わったことによる効果はあったのか。淡水に冷却系が時間的に回復するはいつごろなのか。

回答：2号機制御室に明かりが点ったが、その他の進展は特にない。圧力抑制器についても特にない。淡水の効果については、金属の腐食を防ぎながら効果がでることを期待している。

：残留熱除去系の恒久的な冷却はいつまでか。冷却効果はどれだけのものか。デメリットを防ぐだけか。

回答：淡水による成果はこれから。

補給水系の効果はあるのか。

回答：残留熱除去系が最終系であり、それまでの手段として補給水系を使っている。うまくいっていないくてポンプ車でおこなっている。いつ復活できるかわからない。

消防車で給水し続けているがスケジュールが見えない。

回答：これしかない。

3号機の溜まり水に関連して、前日までに水はなかったが、一晩のうちに何かあったのか。そこが知りたい。

回答：前の晩にはなかった。あるいは見落としがあったのか分からない。

朝日：3人の負傷者が出たが、他の作業員に影響はあったのか。

回答：影響は受けていまい。むしろ放射線管理が徹底された。

朝日：3人目が被ばくしたが、その後の健康上の症状はどうなのか。

回答：確認する。病院には予防的に行かれた。

朝日：線量178mSvは全身か。それとも足か。

回答：全身。

朝日：放医研でも確認されたか。

回答：現場で管理するAPDで線量が確認された。

朝日：24日なのに、どうして今日なのか。

回答：3人目も同じ日(24日)

朝日：ベントが遅れた話に関連して、ベントが適切であれば防げたのか。

回答：ベントについてのタイミングについての評価は検証されるものであり、結果的に燃料が損傷した。どこでやればいいのか評価される。

以上

暫定版

左

経済産業省

番号 271316

プレスレク概要
(第56報)

日時：平成23年3月27日(日)10:00~11:40
場所：保安院第4会議室
対応：西山審議官

概観、2F 幹 ←

(説明)

<各号機の作業進捗状況>

○1号機

- ・原子炉の水の注入、淡水に切り替えて行っている。
- ・使用済み燃料プール、29日を目途にコンクリートポンプ車による淡水の放水を考えている。1号機の使用済み燃料プールは発熱量小さいのでこういうタイミングと考えている。
- ・タービン建屋地下1階のたまり水復水器に戻す作業、24日17:10から行われたものを継続して行っている。
- ・原子炉への給水系注入は、今まで消防ポンプ車によるものを電気の駆動に切り替えていく。仮設の電動駆動ポンプにするか外部電源引き込んでのポンプかは決まっていないが今日の午後目途に消防ポンプから切り替えたいと考えている。
- ・電源復旧作業については、一例として、直流電源ケーブルの敷設(動力直流で制御する。交流直流両方必要)や建屋の空調の健全性確認等を進めている。

○2号機

- ・海水から淡水に切り替え原子炉に注入。
- ・淡水の注入消火系を使った形でホウ酸を入れる必要があるので仮設のタンクから行っていたが、すでにホウ酸は投入され、ホウ酸必要ないため、純水のタンクに切り替え。
- ・消防ポンプから電動駆動ポンプを、仮設のポンプか外部電源利用かは決まっていないが、切り替えていく。
- ・タービン建屋1階にあるたまり水を復水器へ移送する作業を実施予定。
- ・使用済み燃料プールへの注水を海水から淡水へ切り替え。消防ポンプ車から仮設ポンプか外部電源明日28日目途で切り替え。
- ・電源については、直流ケーブル敷設受電原子炉建屋の空調の健全性確認等。

○3号機

- ・原子炉への給水系からの消防ポンプ車による淡水注入を今日の午後目途に電動ポンプに切り替え。

- ・コンクリートポンプ車による使用済みプールへの海水注水、本日11:00から13:00予定。
- ・地下1階たまり水 移送方法移送場所等を検討中。
- ・電源復旧については一例としてケーブルの復旧原子炉建屋の空調健全性確認。

○4号機

- ・コンクリートポンプ車による使用済み燃料プールへの海水注入、本日15:00から18:00予定。
- ・明日以降、使用済み燃料プールへの海水注入を淡水へ切り替え。消防ポンプ車の見込み。
- ・中操照明ケーブルの普及その他機器健全性（原子炉建屋空調含む）確認。

○5、6号機

- ・冷温停止 当面は安定状態。

○共用プール

- ・特になし。

<たまり水の処理排水>

○1号機、14日17:10から継続して実施。

- ・ポンプ1台では流量が少ないので3台に増やす準備。
- ・昨日申し上げたとおり地下からくみ上げた水復水器の上の点検用のマンホールから注入している。

○2号機

- ・同様に復水器に移送する作業を本日開始する予定。
- ・水の量から、この方法だけでは十分でないと考えている。

○3号機

- ・くみ出し方、くみ出したものどこに納めるかについて現在検討中。

<2号機の大物搬入口での水の発見の状況>

- ・3月25日午前8時ごろ、消防署活動前の事前サーベイの際、東電社員が2号機の大物搬入口で水流れた跡を発見。保安院は口頭で報告受けている。25日昼ごろの確認では、水たまりはなくごく僅かに湿っている程度であった。サンプル取って分析したところ15mSv/hであったこと口頭で報告受けている。27日現場サーベイ実施。一般排水溝に流れたかについては確認されていないと報告受けている。実際現場の状況は大物搬入口の側には7.8mの道路があり、その脇に側溝がある。もう少し調査が必要。

<測定データ>

○各号機タービン建屋地下階のたまり水測定データ

- ・2号機のたまり水26日試料採取。1000mSv/hよりも大きい。これはかなり大きい値。核種コバルト56これは核分裂反応というよりも配管の金属

の放射化によってできるもの。ヨウ素セシウム等については核分裂反応に由来するものであることは間違いない。その意味で、原子炉の由来である可能性が高いと考えている。ただ、どういう風に原子炉由来であるか、ここに水が溜まっているかについては分かっていない。よく中身を分析し、水のルートも含めて結論出さないといけない。

- ・半減期の短い元素ヨウ素131（8日）、ヨウ素134（53分）、セシウム136（13日）等が含まれているので、原子炉使用済み燃料プールよりもどちらかという原子炉の可能性が高いと考えられる。

<海水モニタリング資料>

- ・ヨウ素131が1250倍というデータについて、一番最新のデータとして26日14:30で1850.5倍という値が入ってきたので速報的に申し上げる。
- ・低ければ低いほどよいが、現状では数字のオーダーとしては1250倍と大きな違いはない。1Fから20kmの地域は人が立ち入らないこととなっていること、また生物濃縮されて人が摂取するまでには相当希釈されるので健康被害影響ないと考える。
- ・さらに、30km沖での文部科学省の海水調査では線量に特に大きな変化見られない。空中の測定も実施している。この結果から健康影響ないと考える。
- ・ただし、だんだん増加してくるということについては注意必要。

(質疑)

Q：(読売新聞) 2号機のたまり水データの説明で、コバルトが金属由来ということだったが、コバルトが生成されるとしたら、配管なのか原子炉圧力容器格納容器というのはわからないか。

A：私の理解ではどれも可能性がある。

Q：どれもあるということでしょうか。

A：専門家の解析を待ちたい。

Q：海水のモニタリング結果については、海の濃淡もあろうが、継続して排出が続いていると考えてよいのか。

A：その可能性否定できない。どういうことが起こっているかよく考えないといけない。一方で炉心の低温安定という緊急の作業要請との兼ね合い考えながらうまく対応したい。

Q：原因について今の考えを示してほしい。

A：海に放射性物質で出るルートいくつか考えられる。空間を飛んで行って海に入る、例えば蒸気の中に混じって海に落ちるルート、雨が地表面に落ちた放射性物質を洗い流して海に行くルート、それに、今地下に溜まってい

る水が海に行くルート、これは今のところ確認されていないが絶対的にな
いとは言えないのでこれも含めて考えないといけない。

Q：濃度との関係で、客観的にどの可能性が高いのか。

A：どれと決めるだけの決め手をわれわれは持っていない。

Q：(不明) 2号機たまり水のホウ素134が29億ベクレル/cm³とあ
るが、これだけのものが出るというのはどういうことが考えられるか。

A：よくわからない。

Q：半減期が53分のものがこれだけ出ているということは、常に出続けている
ということとは考えられないか。

A：専門家の見解聞いて分析しないとよくわからない。

Q：桁としては多いと思うが。

A：そう思うのでよく分析したい。

Q：(テレビ朝日?) たまり水 プルトニウムの分析について、昨日の段階では
必要ないということだったがその根拠を聞かせてほしい。

A：プルトニウムについては、土壤の試料や空気中のダストについて専門家に
分析を依頼しており、来週の初めにも土壤の資料一部の結果がわかる。そ
れを見た後で対応を検討したいと思っている。

Q：水を調べない理由がわからない。

A：プルトニウムを検出するには時間もかかり、ほかの影響遮らないといけな
い。やる必要があるのか。一番出そうなところをまず見る。

Q：土壤を見れば間接的に水に含まれているかわかるということか。

A：わかると考えている。

Q：(産経新聞) 2号機のたまり水の線量1000mSv/hより大きい
ということだが正確な値が出てこないというのは計測機が降りきれている
のか。また、表面線量ではなく空間線量で値を出してほしい。

A：いずれもデータがない。分かれば答える。

Q：(共同通信) 1000mSv/hの値について、何かと比べて何倍と
いうことがいえるのか。

A：人間が浴びてよい値は1mSvなのでその1000倍。

Q：炉の水の何倍といえないか。

A：わからないので調べてお答えする。

Q：(毎日新聞) タービン建屋たまり水について、2号機はコバルト56
等、1号機と違うデータが出てきている。2号機は1号機と違うことが起
きていると考えられるか。たまり水どれくらい量があることを想定してく
み出す計画を立てているか。

A：ルートはまだわからない。データは手に入れたばかりであり、よく分析し

たい。たまり水の量については見極めている最中。今の段階でそれぞれどれくらいの量あるかははっきりわからない。

Q : (不明) 1号機3号機2回目の計測ということだが、1回目と比較して線量が減っていると思われるが、その評価如何。

A : 大まかに申し上げると、3号機についてはヨウ素やセシウムの放射線濃度が10の5乗台だったが、今回は4乗であり、1桁近く減っている。1号機は前回とほぼ同じ。

Q : (AP通信) 4号機のたまり水に関しては、他の号機と比べて長い半減期のものが検出されている気がするが、これを見ると水を漏れている場所がほかと異なる、使用済みプールの可能性があるということか、前回の測定はいつだったか。

A : 確かに4号機について核種の内容が異なっている。もともと原子炉が使用済みプールかどちらかの可能性が高いところだが、1, 3号機とは違うと思われるが、分析十分できていないので、追って回答する。前回調べたのは、前回の東電の資料の日付が25日付なので、24日か25日と思われる。

Q : (不明) 2号機のたまり水の線量は1号3号の線量より高いという理解でよいか。

A : そのとおり。

Q : ヨウ素131の濃度ゼロが二つ多いので、前回1万倍ということだったが、今回は100万倍ということよいか。

A : 換算の方法がわからないので即答できない。

Q : 1, 3号より多いということよいか。

A : よい。

Q : (NHK) 海洋の核種の濃度が1850倍と増えているのは、炉内から水が漏れ出し続けているということによろしいか。

A : 海水の線量の由来が炉内の水かどうかわからない。流れ出ている可能性はあるので、緊急作業として注入された水がだらだらと流れ出ている状況は見ていないが、緊急作業の兼ね合いも見つつ注意する必要がある。

Q : 流れ出ている状態が継続すると国民が不安に思うが、原因の特定は現在行っていないということか。

A : 分析を行っている段階。

Q : 本件について保安院としてどういう対策を打つのか。

A : 難しいところだが、どういうルートで出ているのか見極めて対策打つことになる。その際は緊急作業との兼ね合いも踏まえる必要がある。

Q : (朝日新聞) 4号機線量率としてはほかの号機より低めだが、津波か

ぶった可能性があるということだった、今回の量と核種状況から津波と
っていたこれまでの説とは異なってどこから来た水ということがいえるか。

A：わからない

Q：(不明) たまり水についてポンプでくみ上げていても相当量残っている
ということでしょうか。

A：ポンプについては増強すると聞いている。

Q：どのエリアにたまり水が広がっているか保安院として把握していないのか。

A：把握していない。

Q：他の号機もいつできるかわかっていないということでしょうか。

A：2号機では1号機と同様の予定だが別の方法も考えないといけないという
状況。3号機は検討中。見通し立つまでは時間かかる。

Q：3, 4号機で作業が開始されないというのは復水器満杯ということか。

A：それだけの理由ではないと思うがその可能性もある。

Q：戦略は何も立てられていないということか。

A：検討中である。

以上

28日

左
2F
5F
METI
1F

左

暫定版

臨時プレスレク概要

日時：3月28日(月) 01:30(配布)

01:46~02:10

場所：保安院第4特別会議室

対応：渡邊広報課長

(説明)

<福島第一原子力発電所2号機タービン建屋地下溜まり水の測定結果について>

- ・西山審議官から2号機の溜まり水について発表したこともあり、このように再度、分析評価結果を報告。合わせて放射性物質濃度の測定に係る誤りであることから、再発防止を口頭で指示した。
- ・東電がプレス発表したものをお知らせした。2号機のたまり水について、昨日の午前に発表したものを昨晚遅くに再評価しますと記者会見があった。
- ・ヨウ素の134の値が大きかったものについての再評価。ひとつは8:50のデータについて核種を取り違えていた。同じ8:50に再採取した結果についても検出限界だった。

(質疑)

共同 (): 測定結果にコバルトも検出されたことから配管から来ているのではないかとあったが、これの見方についてもどうなのか。

回答：検出限界から、こちらも誤りがあった。

共同：テクノチウムについては、再評価で10の5乗となっている。こちらは正確なところは、再評価したところ10の5乗となった。逆に大きくなったところもあった。

回答：計算を行い、補正をしたもの。個別に間違っただろうかはわからない。

共同：法令に基づく指示なのか。

回答：法令の指示でなく、行政庁の指示で行った。

共同：指示はいつ、だれがだれに行っただのか。

回答：発表は本日の0:20。指示は核種分析結果の再評価の再構築と手順の徹底についての2点について行った。

保安院の野口首席から東京電力の放射線管理の保安班の責任者に指示した。

朝日：正確なデータの発表に当たっては、今後遅れることはないのか。

回答：正確性と迅速性については相反する点があるが、体制が組まれ、再構築し、迅速にやることも必要。非常に遅くなるような事態はないと思う。

朝日：保安院の専門家からの立場として、東京電力に対し立ち会い、指導はあるのか。

回答：核種について当てはまるどころが誤りであって、方法の誤りはない。

〇〇：今回の疑問点として、再サンプリングの評価はないのか。

回答：結果についての再評価は聞いていない。それをすべきであると言っていない。

〇〇：テクノチウムのデータについては26日の再評価が行われ、再サンプリングの時間が8:20から8:40に行われており、まだ検出されると思われるが、この辺の矛盾はないのか。

回答：再測定は同じもので増えている。再評価の理由の違いについては答えられるだけの知見は、今はない。他のものについても等しく評価した。評価の際にミスがあったと推測。

〇〇：ミスについて保安院から口頭で指示したことで解決ということだが、保安院はこれをよしとしたのか。

回答：データをきっちり見ている。現時点で保安院としては正しいとして配布したものではない。

〇〇：オーソライズしたものとしてよいか。

回答：東京電力から資料を受け取ったままであり、オーソライズはしていない。

〇〇：やり直しを行ったのは2号機だが、他の号機はどうなのか。

回答：1~4号機まで測定し、その他のヨウ素134は、現時点で取ったものを再評価するものでない。

テレ朝（はいおか）：12時間後の再サンプリングでは線量率は出ないのではないか。

回答：わからない。

テレ朝：放射性物質濃度が全体的に上がった。この線量率は予想できたのか。

回答：全体で上がったことについて、合計で見れば多くなった。おそらく表面の線量から、水の中に溶け込んだものが多くなった。

〇〇：指示があった東京電力の名前のフルネームをお願いします。

回答：██████ 部長。下の名前はわからない。

〇〇：野口主席のフルネームについて教えてほしい。

回答：後ほど。

〇〇：再サンプリングは現場での採取したものか。

回答：そう。

〇〇：再評価と再サンプリングについて違いを正確に教えてほしい。

回答：時間は一緒。データは取れている。ヨウ素と思っていたのがコバルトだったので、評価しなおした。サンプルを測定して、半減期をみて測定した。

〇〇：データを見直し、再々サンプリングを取り直したものなのか。

回答：確認する。

毎日：東京電力は γ 線の測定にコバルトとヨウ素を取り違えること自体、既に破たんしている。このことについて、保安院はどう見ているのか。

回答：検出限界未満となっている。ある一定のエネルギーについて機器の精度からこれ以下の数字は入れない。そこはもう一度確認する。

毎日：保安院側では東京電力のデータが誤りであると思ったのはいつか。

回答：正確な時間は申し上げられない。記者会見の場でやり取りがあったと思うが、保安院でも正しい値と言っていなかったと思う。

テクニカルなことについての2点は、後ほど回答する。

〇〇：明日の作業予定の概要を教えてください。

回答：明日の記者会見。

以上